

なかぐしくうどうん
中城御殿跡地整備検討委員会

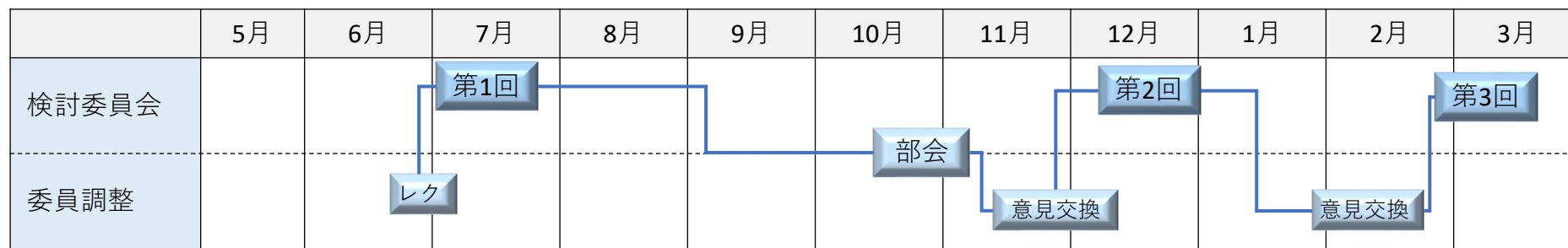
第 2 回

第 2 回委員会：12月24日（金）10：00～

【資料 2】部会・専門家ヒアリング・地域意向のまとめ

1. 検討スケジュール（予定）
2. 第 1 回委員会以降の検討経緯
3. 主な意見のまとめ

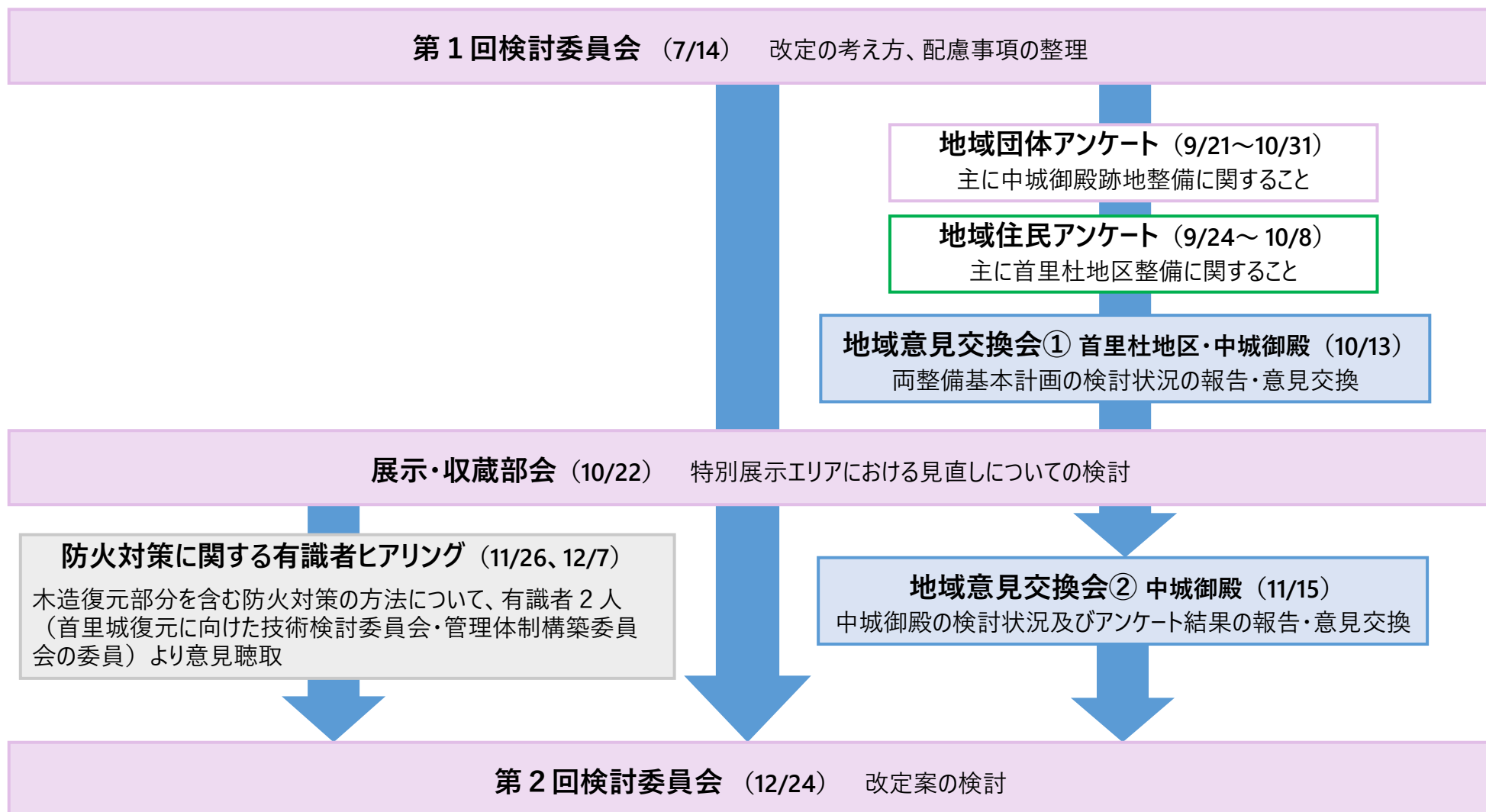
1. 検討スケジュール（予定）



回	開催時期	会議名	議論テーマ、検討事項（案）
1	7月14日 （済）	中城御殿跡地整備 検討委員会①	<ul style="list-style-type: none"> • 現行計画及びその後の動きについて確認・共有 • 改定の考え方・配慮すべき事項についての確認
2	10月22日 （済）	中城御殿跡地整備 展示・収蔵部会	<ul style="list-style-type: none"> • 展示・収蔵規模、収蔵環境に関する検討
3	12月24日 （本会議）	中城御殿跡地整備 検討委員会②	<ul style="list-style-type: none"> • 改定案の確認（エリア別の整備計画、展示・動線・管理計画、外構計画等）
4	3月 （予定）	中城御殿跡地整備 検討委員会③	<ul style="list-style-type: none"> • 整備基本計画改定（案）の検討 • 整備スケジュール案の作成 • 段階的公開の考え方について

2. 第1回委員会以降の検討経緯

第1回検討委員会以降、展示・収蔵部会の開催や地域意見の収集や意見交換等を行った。また、施設の防火対策に関し、建築防災及び消防防災分野の有識者に対するヒアリングを実施した。



3. 主な意見のまとめ

展示・収蔵部会の主な意見

- 中城御殿は登録博物館を目標に掲げ、そのための体制を整えていく方針を確認。
- 展示・収蔵機能の拡充という観点から、必要規模を確保するため建物北側の増床で対応することを確認。
- 中城御殿では、出土遺物の展示は行うべきだが、収蔵まで行う必要はない。
- 中城御殿への修復室については、収蔵資料のメンテナンスを目的とし、そのために必要な規模を検討する。
- 中御庭への動線については、サンゴ砂利敷きの空間を配慮した検討が必要である。
- 首里城公園に関する3つの収蔵施設(中城御殿、首里城、指定管理者施設)について、役割の再整理が必要である。
- 全県的な課題として、県内の文化財の保存(収蔵)・修復等に対応可能な、文化財保存修理施設の検討と人材育成の検討が必要である。

防火対策に関する有識者の主な意見

首里城復元に向けた技術検討委員会（国）及び首里城公園管理体制構築検討委員会（県）の建築防火分野、消防防災分野を専門とする有識者委員より、中城御殿における防火対策についてご意見をいただいた。

- 復元する木造建物について、建物全焼は許容しない等の防火対策の目標を検討する必要がある。
- 木造建物については、消防法に基づく屋内消火栓、消火器、屋外消火栓に加え、スプリンクラーでの対策が必要である。また、設備だけでなく、建物内部での区画設定や防火性のある仕様など、延焼遮断の対策検討が必要である。
- 火災を早期に感知できる感知器の設置や、自衛消防隊が利用可能な消火設備も検討したほうがよい。
- ドレンチャーは建物周囲のすべてにつける必要はなく、必要箇所に重点的に設置する方法が考えられる。
- 瓦屋根であることから、屋根等の消火を目的とした放水銃の設置は必要ない。
- 消火水槽の有効水量は、消防法に基づく放水時間(20分)は確保する必要がある。
- 延焼防止対策については、敷地内のRC造の建物との環境をどう考えるかの方が課題となる。木造建物と敷地外建物との距離がある程度離れていることや、RC造の住宅街となっていることから、外部からの延焼としては、風上からの飛び火が想定される。そうした場合の対策をマニュアル化することが有効である。

3. 主な意見のまとめ

地域団体・住民アンケートの主な意見

【地域団体の意向(アンケート・意見交換会のまとめ)】

- 中城御殿の機能については、展示収蔵機能や体験学習機能、庭園・広場機能を重視する傾向がみられた。そのうち、コミュニティ機能のあり方としては、文化継承やシビックプライドの醸成を図る場、地域が利用したり集まりやすい場となることを期待する意見があった。
- 地域の施設利活用については、地域団体主催の企画や周遊のためのガイダンス、休憩の場としての利用を想定する傾向がみられた。また、夜間利用を想定した防火・防災対策を求める意見もあげられた。一方、施設主催のイベントについては、中城御殿に由来する行催事の開催や工芸・食・スイーツのイベントを期待する意見もあった。
- 管理運営は、イベントや講座の企画・運営としての参画を想定する傾向がみられたほか、伝統工芸の団体からは首里染織館(suikara)との連携や、工芸品をモチーフとしたデザインのアドバイスに関する意向が確認された。
- 意見交換会では、アンケート結果に加えて、「和室を積極的に開放したり、遊び場や研修の場として利用したりすることで琉球王朝文化の空間を体験し、子どもたちが首里地域を誇りに思えるような施設となるとよい」、「上之御殿庭園から首里城への眺望を確保してほしい」等の意見があった。

【住民アンケート】

- 回答者の約8割が広場・庭の日常的な開放を求めており、公園としての利用意向が確認された。展示会や講座等、施設イベントへの参加の回答の割合も高かった。

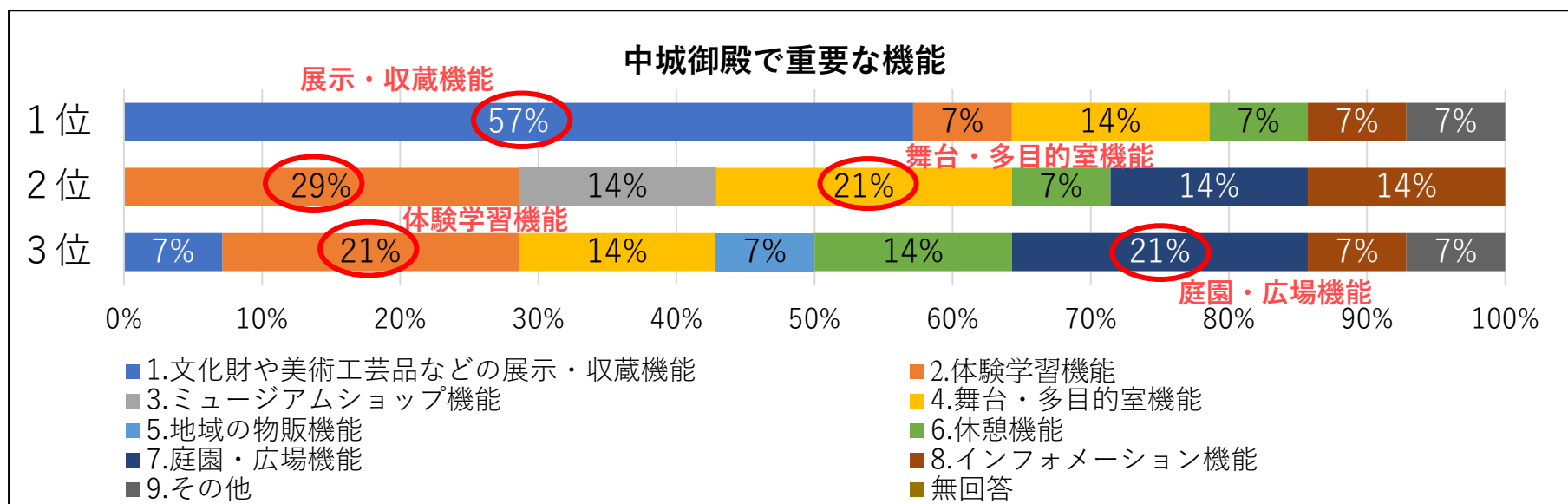
3. 主な意見のまとめ

【地域団体アンケート（抜粋）】

調査期間：令和3年9月21日（火）～令和3年10月31日
 調査依頼団体：16団体（中城御殿への関わりが想定される首里地域の団体、那覇市および首里杜地区の観光・商工関係者）

問2 中城御殿で重要な機能

展示・収蔵機能、体験学習機能、舞台・多目的室機能、庭園・広場機能の回答の割合が高かった。



自由意見

休憩・インフォメーション機能

- ・琉球文化の紹介と休憩機能による観光客の誘致
- ・首里杜地区の周遊を促すための機能
- ・モノレールから首里城までの休憩場所、首里の魅力をPR
- ・駐車場は不要（緊急・業務用は必要）

体験学習機能

- ・高級士族の生活を「デジタル空間を再現」して文化継承へ
- ・学生の研究のために、世界中の琉球の財物、古文書などをネットで見れるとよい
- ・琉球文化を引き継ぎ、シビックプライドの醸成を図る「琉球文化継承室」が必要

地域の憩いの場

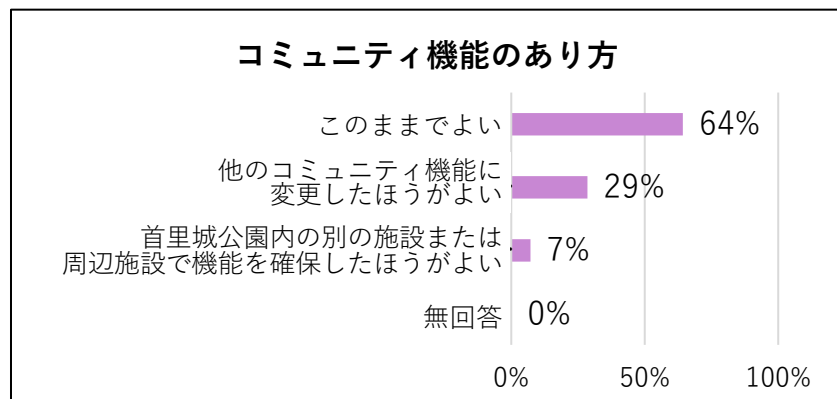
- ・首里杜地区の中心として、交流人口・関係人口も含めた人々が「ゆるく」「間口広く」集まれる場が必要
- ・お年寄りや地域の人が集まれるおしゃれな「マルシェ」
- ・地域利用と観光利用を整理して利用しやすく

3. 主な意見のまとめ

【地域団体アンケート（抜粋）】

問3 中城御殿におけるコミュニティ機能のあり方

中城御殿で検討しているコミュニティ機能は「このままでよい」が約6割であった。



表御殿東側（木造復元）に関わる意見

- ・シビックプライド醸成のため次世代が幅広く使えるよう柔軟な運用が必要。
- ・多世代がゆるく集まり学び合える仕組みの場となることが大切。座敷を柔軟に活用
- ・風格ある建物の空間をゆっくりあじわう

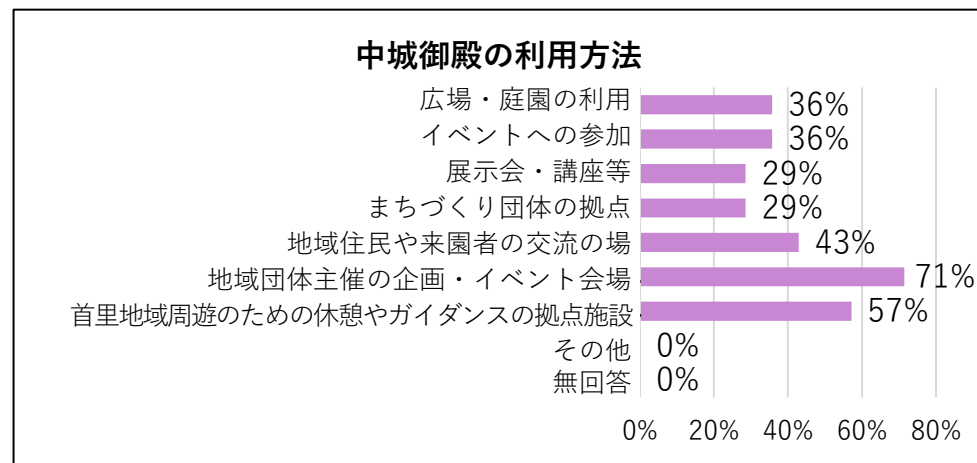
表御殿西側（RC造）に関わる意見

- ・周遊を促すためのインフォメーション機能
- ・地域の人と観光客とが楽しめ、生活しやすいまちづくり

自由意見

問4 中城御殿の利用方法

約7割が地域団体の企画での利用と回答し、周遊の休憩・ガイドス拠点や住民と来園者の交流の場も上位となった。



施設イベントへの意見

- ・琉球王国の王子の屋敷という独自の祭祀等
- ・イベントや体験（地域と観光客が参加、人が集まる、工芸・食・スイーツ、富裕層や優雅さなど）

地域団体主催の企画・イベント会場の意見

- ・木造部分でお茶席や十三祝い、ニービチ等
- ・団体の打合せやイベント（防火・防犯対策が必須）
- ・地域や学校のイベント（お話大会、敬老会、祝賀会、保育園や幼稚園の遠足、小学生の写生教室等）

自由意見

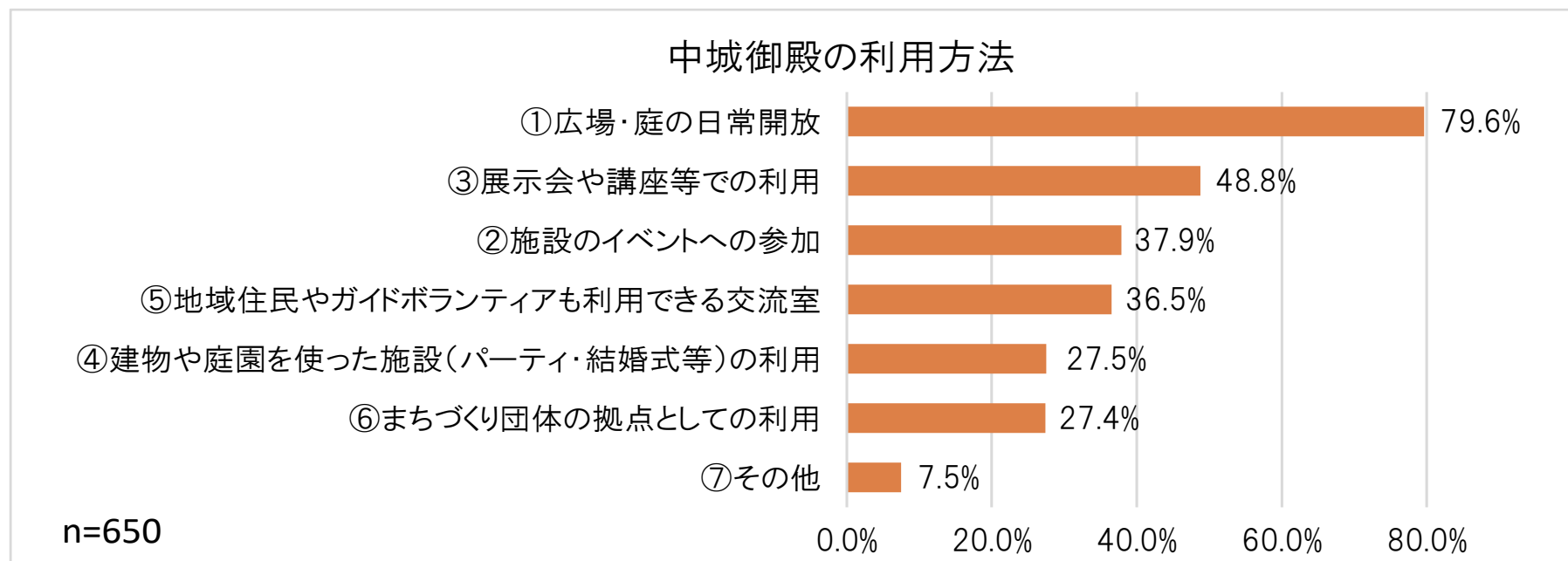
3. 主な意見のまとめ

【住民アンケート（抜粋）】

調査期間：令和3年9月24日（水）～令和3年10月8日（金）
調査対象：首里杜地区内在住の住民2,000人

中城御殿の利用方法

中城御殿を地域に開かれた施設とする場合、どのような場所として利用したいかについて伺った。「①広場・庭の日常開放」532人（79.6%）が最も多く、次いで「③展示会や講座等での利用」326人（48.8%）、「②施設のイベントへの参加」253人（37.9%）となった。



【その他の意見】

子どもが遊べる・親子で学べる場／住民の憩いの場／自習室／コワーキングスペース／博物館として整備／中城御殿の歴史等を教える場・イベント開催／旗頭や地域の伝統芸能／演奏会等ができるイベント広場／カフェ／工芸品展示・販売体験の場／ライトアップ